



八戸学院光星高ナインに声援を送る野球部員ら16日、阪神甲子園球場

「やったぞ」喜び爆発

光星8強進出でスタンド

打撃、本領発揮に期待も

16日に行われた全国高校野球選手権大会の3回戦で、文星芸術大付属高(栃木)を破った八戸学院光星高。同校のベスト8進出は武岡龍世選手(ヤクルト)らを擁した2019年以来で、アルプススタンドからナインの戦いを見守った野球部の控え部員は「頼れるメンバーがやってくれた」と喜びを爆発させた。一方、厳しい練習に共に励んできただけに「もつと打てるはず」と、打の光星の本領発揮に期待する声も聞かれた。

(福田駿)

光星は初回に先制される。武岡さんたちがベスト8も、その裏の攻撃で、今日に入るところを見ていたの、会絶対調の3年藤原天斗選で本當にうれしい。来年少手の適時打ですぐさま逆。それは自分もあの舞台に立ち転。1年の岸本風輝さん「たい」と声を弾ませた。

(15)は「藤原さんが(初戦)2年の宮良神聖さん(16)の本塁打に続いて、また打つてくれた。レベルが高くて尊敬する」と先輩のプレーに目を輝かせた。

試合では、2年生左腕2人の粘り強い投球も勝利の要因となった。先発の岡本琉奨選手から8回にマウンドを引き継いだのは洗平比呂選手。

以前、洗平選手と部員寮で同部屋だったという2年の阿部隼也さん(17)は「ああいう場面で堂々と投げられる比呂はやっぱりカッコいい」と笑顔。自身は同じポジションの武岡選手に憧れているといい、「テレビ

初回に貴重な追加点を挙げた3年青木虎仁選手のプレーに刺激を受けた様子。青木さんのタイムリーもあつて流れに乗れた。いつも頼れる先輩」と尊敬のまなざしを向けた。

ただ、チームのバッテリーにはさらなる爆発を期待しているといい、「光星のメンバーはもつと打てると思う。次は2桁得点を取って、大差をつけて勝利してほしい」とエール。11年ぶりのベスト4進出と、その先にある悲願の初優勝を願っていた。